桜木町駅前交通広場再整備の進捗状況について(報告)

建築・都市整備・道路委員会資料令 和 3 年 2 月 1 5 日都 市 整 備 局

1 趣旨

桜木町駅は、みなとみらい21地区の主要な玄関口であり、駅東側に位置する駅前交通広場は、多くのバスやタクシーが乗り入れる重要な交通結節点です。

近年は、クルーズ客船受入機能の強化や、みなとみらい21地区の街区開発の進展などに伴う交通 需要の増加、オンデマンド乗合交通など新たな交通モードについての将来的な導入検討など、まちづ くりの進展により広場に求められる機能が変化し、それに伴い様々な課題も生じています。

そこで、駅前交通広場の再整備に向けて、昨年度から設計や関係機関協議を進めてきましたが、計画内容がまとまり、工事に着手しますので、その概要についてご報告します。

2 駅前交通広場の課題

- ① **起終点型路線のバス待機場の不足**:終点で乗客を降ろしたバスが、次の出発まで広場外での時間 調整を余儀なくされており、定時運行に支障が出ています。
- ② 路線バス乗り場のわかりにくさ:乗り場が方面別でなくバス事業者ごととなっているため、来街者にわかりづらくなっています。
- ③ 通過型路線の広場乗り入れによる非効率な運行:横浜駅から桜木町駅前を経由し、本牧や磯子方面へ向かうバス路線の一部が、迂回しながら広場に乗り入れており、混雑にも繋がっています。
- **④** シャトルバス等乗降場の不足:クルーズ客船用のシャトルバス等が、広場外での待機を余儀なくされており、周辺道路に影響しています。
- ⑤ **信号のない横断歩道における安全性の低下**:シャトルバスやタクシーの乗降場を利用するために、 信号のない横断歩道を渡る歩行者が増えており、安全対策が求められています。
- **⑥ 多様な交通手段の受け入れ場所確保の必要性**: まちの発展に伴い将来導入が見込まれるオンデマンド乗合交通等についても、広場への乗り入れをできるようにする必要があります。



3 再整備の概要

(1) 再整備の内容

(ア) 起終点型路線のバス待機場の増設【課題①に対応】

起終点型バス路線の定時性を確保するため、バスが出発時刻まで時間調整する待機場を6台分増設し、計8台分を確保します。

(イ)路線バス乗り場の再編【課題②に対応】

利用者の利便性向上に向け、バス事業者ごとの乗り場から方面別乗り場へ再編します。

(ウ)シャトルバス等乗降場の拡充【課題④⑥に対応】

シャトルバス等の需要増へ対応するとともに、将来の新たな交通モードにも柔軟に対応するため、乗降場を2台分増設し計4台分を確保します。

(エ) 車両動線及び乗降場の位置の変更【課題⑤に対応】

広場内の安全性向上やタクシー利用者等の乗換利便性向上のため、車両動線の変更や横断歩道 の撤去、タクシー乗り場の駅改札側への配置、身体障がい者用停車施設の新設などを行います。

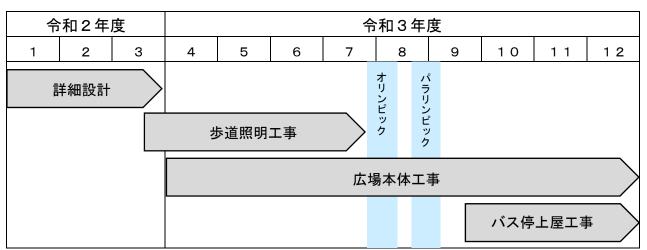
なお、課題③への対応として、通過型バス路線の利便性や効率性向上に向けたルート変更などについて、道路管理者や交通事業者と調整を図っていきます。

(2) 概算整備費

242,000 千円 (令和 2 年度予算)

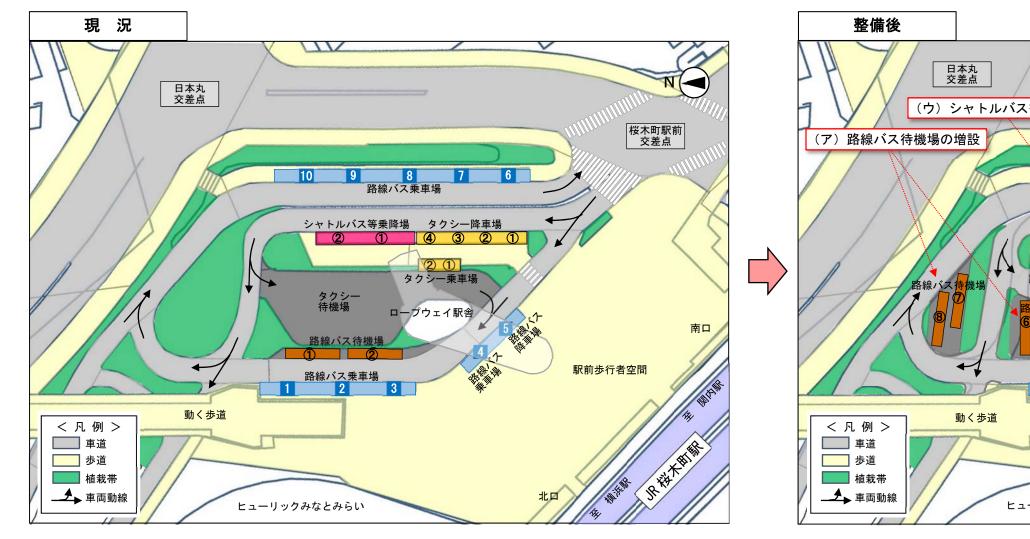
4 今後のスケジュール

令和2年度は、詳細設計や関係機関との協議を完了させるとともに準備工事を進めます。 現在広場内で整備が進められているロープウェイが開業する4月以降に、本格的な工事に着手 し、令和3年12月までの工事完了を目指します。



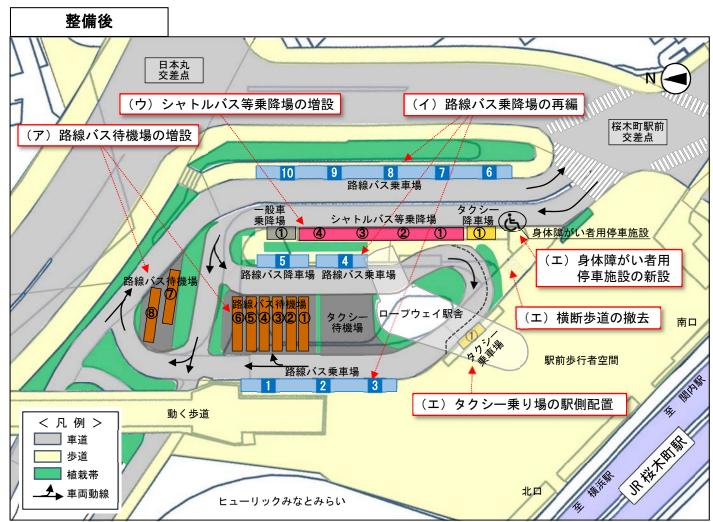
※東京 2020 オリンピック、パラリンピックの開催期間中は、関係機関と協議の上、工事調整を行います。

【参考1】 桜木町駅前交通広場再整備 概略図





【起終点型】バス路線			
主な行き先	運行事業者	便数	
・保土ケ谷駅 ・出手駅 ・油道なりでは、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・	・市交通局 ・神奈川中央交通 ・相鉄バス ・フジエクスプレス	約 480 便/日	



- ※1 今後の協議により、形状が変更となる可能性があります。
- ※2 再整備後の各路線バス系統の乗り場の位置は調整中です。

【通過型】バス路線			
主な行き先	運行事業者	便数	
・保土ケ谷駅 ・大黒ふ頭 ・本牧田庫 ・杉田駅 ・港南台駅 ・戸羽田空港 ・郊田空港	・市交通局 ・神奈川中央交通 ・京浜急行バス	約 420 便/日	